

製紙用プレスロールへの
セラミック溶射加工
国内シェアトップ

倉敷ボーリ ング機工 株式会社



代表取締役
田尻 登志朗

岡山県
倉敷市松江2-4-20

1957年(昭和32年)設立
TEL 086-456-3877

<http://www.kbknet.co.jp/>

天然花崗岩製プレスロールの代替となるプレスロール用溶射皮膜「KX ROCK®」を開発。抄紙機の長期安定運転、操業効率化を達成し、紙パルプ業界に貢献。

プレスロールは抄紙機の心臓部

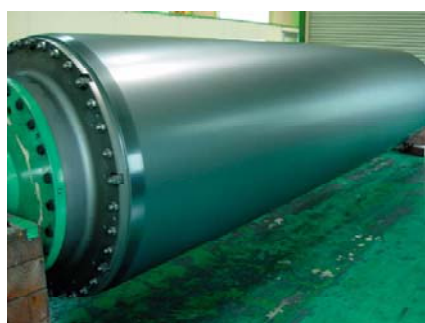
プレスロールは抄紙機を構成する大小200本以上のロールの中でも最大級のサイズで、パルプから水分を搾り取り、シート状にする重要な役割を担う。従来は腐食や摩耗に強く、紙離れが良いことから、天然花崗岩が使用されていた。しかし、資源の枯渇に加え、抄紙機の大型化、高速化に伴い、花崗岩の使用は大きく制約されるようになった。また、数ヵ月毎の研磨が欠かせず、寿命も短いという難点を抱えており、代替品の開発が強く望まれていた。

KX ROCK®は「錆びない、剥がれない、すり減らない」

同社は、構想から10年近い歳月をかけ、鉄芯ロール表面にセラミックスを溶射する代替技術を開発。このプレスロール用セラミックカバーKX ROCK®は耐摩耗性、紙離れ性などすべて花崗岩と同等以上の性能を発揮し、長期間のメンテナンスフリー、ロールの長寿命化を実現。2006年には紙パルプ技術協会より第34回佐々木賞を受賞した。現在、国内シェア50%（大型高速抄紙機において）、韓国でもシェア90%を誇る。

高い技術開発力と精密加工技術を駆使し小物から大型部材まで

製紙用ロールだけでなく、石油化学・石油精製プラント、製鉄、造船、繊維、印刷など同社の技術適用範囲は幅広い。部品の補修・メンテナンスはもちろん、新作品の溶射、溶接加工や切削・研削等の精密機械加工まで一貫対応。円筒状だけでなく複雑形状品、サイズは数10mmから10m、50トンまでの部品への溶射、機械加工を行っている。



KX ROCK®



加工品一例